令和5（2023）年
2月1日
第261号 毎月発行
編集　公民館だより編集室
発行　西東京市公民館
毎月第4月曜日は休館日です

西東京市 公民館だより

今月号の内容

2面…第14回ひばりが丘フェスティバル／ライフデザイン講座／コンサート／イスに座って！やぎさわディスコ／日曜活動サークル一日ロビー見学体験会（田無）
3面…地域講座／趣味の講座／くらしを彩る講習会／ムービールーム柳沢／「市内ちょこっと駅さんぽ④」～東伏見駅編～

柳沢公民館	柳沢1-15-1	☎042･464･8211	kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
田無公民館	南町5-6-11	☎042･461･1170	tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
芝久保公民館	芝久保町5-4-48	☎042･461･9825	shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp
谷戸公民館	谷戸町1-17-2	☎042･421･3855	yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
ひばりが丘公民館	ひばりが丘2-3-4	☎042･424･3011	hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
保谷駅前公民館	東町3-14-30	☎042･421･1125	ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

地域と学校と公民館の連携事業

『まちなか先生』ってなに？

平和講座と防災講座

『まちなか先生』をご存知ですか？令和3年度から、市の教育計画に基づいて「地域と学校との連携・協働」、「地域全体で子どもの成長を支えること」、「学校を核とした地域づくり」を目的に、社会教育課、図書館、公民館の3つの部署で実施している『まちなか先生』事業。公民館では、市民や団体の学びの成果を地域に還元する事業の一つとして、市内の小中学校に出かけ子どもたちに講座を行っています。今年度は、平和講座と防災講座の2つのメニューで、9校2教室、計11回実施しました。今号では、具体的に公民館が学校でどんな講座をしているのかご紹介します。

平和講座の概要

西東京市には、太平洋戦争下にB29による爆撃で多くの犠牲者を出した歴史があります。まちなか先生平和講座では、戦時下の空襲体験を親から伝え聞いた方が、当時の様子を子どもたちに語ります。子どもたちが西東京市の歴史を深く理解すると同時に、自分の住むまちにも戦争があったこと、平和の尊さ、命の尊さを知ってもらう機会としています。

講師には小峰立丸さん（総持寺住職）・萩原直規さん（株式会社アスタ西東京取締役）を迎え、近代・昭和（戦中・戦後）の西東京市の歴史を話してもらいます。空襲体験2世としての実体験も交え、当時のことを語り継ぐことで「語り部」の担い手を次世代に繋いでいくことも、この講座の重要な役割となっています。

またこの講座では、子どもたちが聞いたことをもとに互いに意見を出し合い、講師や地域サポーターの大人たちと分かち合うことも、大切な学びと捉え、グループ学習の時間も設けています。子どもたちにとっては地域の大人と関わる機会であり、大人たちにとっても毎回発見のある学びの場となっています。

1t爆弾模型を囲んでその大きさに驚く子どもたち

子どもたちの感想（一部抜粋）

へいわな地球にするためにせんそうをやめて、ケンカがない世界をめざしたい。この国はどう思っているのか、ほかの国やともだちが思っていることもちゃんと考えて生きていきたい。**（小3）**

西東京にもばくだんが落とされてたことを初めて知りおどろきました。ウクライナの戦場の様子はテレビでしか分からないけれど、他人事だと思わず身近に感じていきたいと思います。**（小6）**

身近な所に戦争があったと考えると、とても怖いと思った。実際に体験した方々が高齢化して、話を受け継ぐ人が少なくなってきている今、私たち若い世代が、戦争はしてはいけないと受け継ぐ必要があるな！ とも思った。**（中3）**

学校の先生の感想（一部抜粋）

自分自身の父も東京北区で空襲の経験があり、その時の話を何度も聞いている。悲惨な経験をリアルに聞いた経験から「戦争はいけない」と心から思うようになった。そうした語りを期待して「まちなか先生の平和講座」を選んでいる。来年もお願いしたいと思っている。

国語の教師だが、近年は教科書から戦争の教材が減っていて、子どもたちに戦争の恐ろしさを伝える機会が減ってしまった。こうした機会が本当に大切と思った。子どもたちにもちゃんと伝わったと思う。

公民館から

現在、ロシアによるウクライナ侵攻が続いています。戦争とはいったん始まってしまうと、終わらすことが本当に難しいと誰もが実感していると思います。

西東京市は昭和19～20年にかけて大きな空襲被害を受けた経験をもつ市です。

平和講座は、78年前、自分の住むまちに本当にあった出来事を知ることで、戦争とはどれほど恐ろしいものかを子どもたちが自分事としてとらえることを期待して企画しました。

ウクライナへのロシア侵攻以降特に、子どもたちの感想には、平和を守りたい思いがいっぱいつづられています。その思いを大人がしっかり受けとめ、大人も自分事として考えることが大切なのだと、子どもたちから教わりました。また、講師陣には、これからも貴重な語り部として、子どもたちに平和の尊さを語り続けていただきたいと思っています。

防災講座の概要

まちなか先生防災講座は、私たちの住んでいるまちに災害（風水害）が発生したら何が起こるか想像し、東京都が作成した「【東京防災】東京マイ・タイムライン」を使って、いざという時のために、各自の「マイ・タイムラインシート」を作成し、この学びの過程を通して、日頃から「備える」ことの大切さを伝えています。

市内の市民活動団体「西東京レスキューバード」を講師に、発災前に提供される情報の集め方、風水害対応のポイントや避難所について学びます。その後、ハザードマップで自分の家を探し、浸水深や避難経路を確認します。各自の「マイ・タイムラインシート」作成には、各班をサポートする西東京レスキューバードのメンバーや、地域の大人が子どもたちに声を掛け一緒に取り組みながら全員完成を目指します。

最後に各自が感じたこと、考えたことを各班で話し合い、全体に発表し共有します。小学生でも自宅や避難所で役に立てるということや、学んだことを、家族や他者へ伝え、具体的な「備え」につなげる意識を高めています。

高低差が分かるジオラマを見ながら自宅を確認する子どもたち

子どもたちの感想（一部抜粋）

非常時用リュックの食料の消費期限などの確認もちゃんとしないといけないと思った。何を持っていくかを先に決めておかないと、もっと時間がかかると分かった。**（小4）**

避難指示が出されてから、災害が起こるまでの時間は準備などの時間を入れていると、すごく短いということが分かりました。**（小5）**

高齢者や小さい子どもはなるべく体育館の中でも安全な所に行ってもらう。自分にできることを探す。**（小4）**

避難所の生活はつらそう。でも誰かの助けになるようなことは、たくさんできると思う。**（小5）**

体育館が避難所になると自分のプライベートがなくなってしまうのが苦しい。ボランティアに参加する。楽しく過ごせるように音楽を流す。**（小6）**

学校の先生の感想（一部抜粋）

自分が住む地域に関心を持って臨んでいた。7月には豪雨（水害）のニュースも目立ち、子どもたちの関心も高かったと思う。地域に目を向けたことで、自分事になっていたと感じる。

各班に大人が入ってサポートいただき感謝しています。

授業や学校の取り組み（「水害」「夏休みの宿題テーマ」「地域との防災訓練」等）とつながり、学びが深まっていると感じています。

公民館から

毎回子どもたちの柔軟な発想に驚き、大人にとっても多くの気づきの機会になっています。

講師の西東京レスキューバードは、市内のイベントや勉強会で防災の情報や学びを広げる活動をしています。「子どもたちのために地域で協力できることがあればうれしい、誇らしい」との思いで協力いただいた33人には、西東京レスキューバードのメンバーだけでなく、避難所運営協議会や地域の方々も含まれます。2回の事前学習会で学び合い、準備しての参加です。

防災の備えで大事なことのひとつは、日頃の人と人とのつながりです。まちなか先生の取り組みで、子どもたちに学びを届けるだけでなく、地域に新たなつながりも生まれています。

今後も多くの小学生に「命を守る防災の学び」を届けると共に、いざという時に地域の担い手となる中学生と学び合う機会へと広げていきたいと思っています。